

議案第 24 号「令和 2 年度一般会計補正予算」についての賛成討論

私は、日本共産党鳥取市議団を代表して、議案第 24 号一般会計補正予算について、賛成の立場で討論を行います。

今回の補正予算は、国の第 3 次地方創生臨時交付金の補正予算を受けてのものと合わせ、今年度の事業費実績見込みによる減額補正となっています。まず、国の第 1 次、第 2 次臨時交付金の不執行分を、国への返還ではなく制度融資の利子補給に積み立てる、このことは事業支援につながり、有効と考えます。ただ、本来であれば使われるべきものが大幅に減額され、結果的に残り、コロナ対応が本当に不十分であった、このことが残念です。

先日、学生支援に参加しました。食料支援を受け取りに来た学生に生活状況を聞くと、「入学以来、授業は半年なかった」、「バイトもなく生活できない。実家も大変なので家には頼れない」、また、「食費は 1 日 100 円で切り詰めている」、こういった実態でした。

また、入学した時から、そうした生活がずっと続いているので、「普通の学生生活そのものがわからない」という声も聞きました。親元を離れ、希望を膨らませ、そして楽しみにしてきた学生生活が全く先が見えない、こういう生活を強いられているということを強く感じました。

今回の補正の中で、市内学生支援事業として 1,600 万円が予算化されました。これは、大学や専修学校が臨時的な直接雇用や授業アシスタントとして雇用するなどを行い、経済的に学生を支える学校に対して、その経費を補助する事業です。学生の支援になる事業として、学生生活を大いに支援する、また有効に活用されることを強く期待します。

また、地域経済も回復の兆しはまだまだ見えてきません。飲食店をはじめ、卸、そして材料を提供する製造元、どこもが本当に限度を超えて踏ん張っています。今回、商店街を支援する事業や売上が減少した事業所への支援策も盛り込まれていますが、この事業が有効に活用されることこそが最も大切です。地元経済を支援し、元気づかせることが、行政や私たちの知恵と力の出どころだと考えます。

今回の補正が、こうした市民の生活が大変なところにいち早く届くことと合わせて、市民の暮らしを支える施策、まだまだ必要だということを申し上げて、賛成討論といたします。